

管内の百名山「吾妻山」



土湯トンネル付近から望む吾妻山連峰

吾妻山は、福島と山形の両県境に連なる西側の最高峰西吾妻山（標高2,035㍎）、中央部の東大巔（標高1,928㍎）東側の家形山（標高1,877㍎）等と浄土平（標高1,580㍎）を囲むように連なる東吾妻山（標高1,975㍎）、吾妻小富士（標高1,705㍎）、一切経山（標高1,949㍎）の総称として呼ばれています。

また、吾妻山は標高2,000㍎級の火山が連なる山脈であり、なかでも一切経山は1977年に小規模な噴火を起こしており、2008年には南面大穴火口付近から噴気が確認され、現在も続いています。

吾妻山は、亜高山地帯に属し、アオモリトドマツをはじめコメツガ、シラベ、ブナ、ダケカンバなどの原生的な天然林が形成され、ここを北限や南限とする植物が分布しています。また、それらの天然林を保存し、動植物の保護、遺伝資源の保存、学術研究等に役立てるために、この周辺の国有林12,000㍎を吾妻山周辺森林生態系保護地域に指定し、関東森林管理局（会津、福島森林管理署）と東北森林管理局で管理しています。



吾妻山(一切経山)南面からの白い噴気

吾妻山は、我が国で3番目に大きな磐梯朝日国立公園の一角をなし、特に、浄土平周辺は、磐梯吾妻スカイラインによりアクセスが容易であることから、澄んだ空気や四季折々の美しい景観を求めてハイカーや登山者が訪れます。

会津森林管理署は、貴重な自然を後世に伝えるため、野生動植物の生息環境への配慮など、調整を図りながら適切に森林の維持管理を行うこととしています。



浄土平から一切経山に登る途中、吾妻小富士を望む

（会津森林管理署広報広聴連絡官）